

(1) 基礎分野

【ねらいと構成】

基礎分野は、看護を学ぶ上での基礎となる力を培うことを目的とする。
看護を展開するための基礎的能力としての人間関係を形成する力、科学的思考の基盤となる基礎知識、看護の対象である人間とその生活・社会のしゅみを幅広く学ぶ。



科目群:基礎分野【科学的思考の基盤】

5年度	授業科目	生命科学 I	担当教員	島田 京子	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
学習目的・目標	1. 授業を通して生命の歴史と共に生物を概観し、多様な生物の中の「ヒト」についての理解を深める。 2. 生体を構成する細胞の構造・機能を知り、生体内における様々な反応について、理解し説明できる。 3. 人体の構造と役割を理解し、説明できる。 4. 授業を通して、自分なりの生命観を持つ。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1:生物と細胞	講義	教室		
2	/	2:細胞とウイルス～細胞とウイルスの違いから生物について考える	講義	教室		
3	/	3:細胞の増殖とからだのなりたち～多細胞生物の病「がん」	講義	教室		
4	/	4:遺伝の法則と染色体～ヒトの遺伝を中心に	講義	教室	アルコールパッチテスト	
5	/	5:人体とその構造～カラダ地図をつくる	講義	教室	カラダ地図を作る	
6	/	6:生体の防御機構	講義	教室		
7	/	7:生物の恒常性～神経系相関と液性相関	講義	教室		
8	/	試験		教室		
評価方法	筆記試験と提出物にて評価します。筆記試験は45分で、配点は100点です。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 『基礎3 生物学』					
参考書	授業中に配布するプリント					
履修上の留意点	授業は、スライドとプリントを用いて行います。学習内容が多いので、プリントの復習をすることが望ましいです。					

科目群:基礎分野【科学的思考の基盤】

7年度	授業科目	生命科学Ⅱ	担当 教員	島田 京子	単位(時間数)	1(15)
第3学年					担当時間数	15+研修1
学習目的・目標	<p>1. 授業を通して生命の歴史と共に生物を概観し、多様な生物の中の「ヒト」についての理解を深める。 2. 生体を構成する細胞の構造・機能を知り、生体内における様々な反応について、理解し説明できる。 3. 人体の構造と役割を理解し、説明できる。 4. 生命科学Ⅰ・Ⅱの授業を通して、自分なりの生命観を持つ。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1:生命の起源～私達のカラダには生物の歴史がつまっている～	講義	教室		
2	/	2:細胞の寿命・生物の寿命～生命科学からみた「死」	講義	教室		
3	/	3:「性別」はなぜあるの?～「生物学的」な性・「社会的」な性	講義	教室		
4	/	4:遺伝子「異常」とは何か?～突然変異と遺伝子疾患	講義	教室		
5	/	5:生物の進化～有利な変異・不利な変異	講義	教室		
6	/	6:動物の発生・ヒトの発生	講義	教室		
7	/	7:人類の起源～ヒトらしさってなんだろう?(その1)	講義	教室		
8	/	8:人類の起源～ヒトらしさってなんだろう?(その2)	講義	教室		
評価方法	提出物にて評価します。配点は100点です。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 『基礎3 生物学』					
参考書	授業中に配布するプリント					
履修上の留意点	授業は、スライドとプリントを用いて行います。学習内容が多いので、プリントの復習をすることが望ましいです。 本講義は集中講義にて行います。複数回分の学習内容を一回の講義で取り扱います。					

科目群:基礎分野【科学的思考の基盤】

5年度	授業科目	論理的思考	担当 教員	加藤 皓士	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>看護実践には科学的根拠を追究する論理的思考がまず求められる。また、自らの考えを人に伝えるための文章力と、仲間内だけの会話にとどまらずフォーマルな場で「ことば」によって主体的・論理的に語る能力が求められる。本科目では、まず最も基本的なことである、「読む」「書く」ことについて体系的に学ぶ。例えば「接続詞」についてしっかりと学ぶことは、論理的な文章を読む・書く上で決定的に重要である。そのような基本的な事項を丁寧に学びたい。</p> <p>1. 論理的な文章を読むことに馴染める。 2. 論理的思考に触れることで、自分なりに思考を学ぶことができる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	話し言葉と書き言葉	講義	教室		
2	/	文の組み立て	講義	教室		
3	/	視点	講義	教室		
4	/	文のつながり方	講義	教室		
5	/	意味の限定	講義	教室		
6	/	言葉の順序	講義	教室		
7	/	定義・分類の表現	講義	教室		
8	/	比較・対称の表現	講義	教室		
9	/	列挙・順序・因果関係の表現	講義	教室		
10	/	引用の表現	講義	教室		
11	/	敬語	講義	教室		
12	/	グループディスカッション	講義	教室		
13	/	長文読解	講義	教室		
14	/	グループディスカッション	講義	教室		
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	試験と出席点で総合評価します。筆記試験は45分で実施します。					
教科書	日本語表現 ノート 名古屋大学日本語表現研究会					
参考書	ns NHK出版新書 福澤一吉『新版 論議のレッスン』					
履修上の留意点	できるだけ解説を丁寧にする予定なので、みなさんも授業に積極的に参加してください。					

科目群:基礎分野【科学的思考の基盤】

5年度	授業科目	倫理学	担当教員	水野 礼	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>「〇〇倫理(学)」と、ある領域や場面を限定し、そこで起こりうる倫理的問題について考える学問領域があります。たとえば、人の生命や医療に関する倫理的問題を扱う分野には「生命倫理」や「医療倫理」、「臨床倫理」等々があります。</p> <p>さて、それではそのような個別の領域や場面における倫理的問題を考えるための基礎となっている「倫理学」とはどのようなものでしょうか？</p> <p>どのような思想もある日突然現れるわけではありません。医療が取り扱う人の身体や生命についての議論は、現代の科学や医療の進化に伴って発展してきましたが、やはりそれ以前から続く倫理想の流れの中にあるものでもあります。また、社会・文化の変容に伴い、そこに現れる倫理的問題も複雑化してきています。</p> <p>この講義では、どのような思想が今日の医療やその周辺諸領域における倫理感に影響を与えているのかを知るため、まず人の生命や身体にまつわる問題に関係する倫理学の代表的な思想を概括的に知り、それから現代的な生命倫理の問題について考えることを通して人の生命とその尊厳および時代の要請である多様性を尊重する姿勢を養うことを目的とします。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	／	生命倫理学とはどのような学問か？	講義	教室		
2	／	代表的な倫理理論の概括①	講義	教室		
3	／	代表的な倫理理論の概括②	講義	教室		
4	／	代表的な倫理理論の概括③	講義	教室		
5	／	インフォームドコンセントとその歴史的背景	講義	教室		
6	／	現代社会の諸問題と生命倫理	講義	教室		
7	／	生殖補助とその周辺にまつわる問い①	講義・GW	教室		
8	／	生殖補助とその周辺にまつわる問い②	講義・GW	教室		
9	／	生殖補助とその周辺にまつわる問い③	講義・GW	教室		
10	／	エンハンスメントと新優生思想①	講義・GW	教室		
11	／	エンハンスメントと新優生思想②	講義・GW	教室		
12	／	エンハンスメントと新優生思想③	講義・GW	教室		
13	／	安楽死・尊厳死①	講義・GW	教室		
14	／	安楽死・尊厳死②	講義・GW	教室		
15	／	授業のまとめ、試験		教室		
評価方法	成績評価は平常点60%、筆記試験40%の比率で総合的に判断して行います。筆記試験は45分で実施します。					
教科書	ナカニシヤ出版 小林亜津子,2019,『看護のための生命倫理[改訂第三版]』					
参考書	玉井真理子・大谷いづみ編 『はじめて出会う生命倫理』 中央公論新社 品川哲彦,2020,『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで-』					
履修上の留意点	課題として、次回の講義で取り扱う事例について、倫理的問題について考えていただく場合があります。					

科目群:基礎分野【科学的思考の基盤】

5年度	授業科目	情報科学	担当教員	中西 裕希未	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	ICT(Information and Communication Technology)は社会のあらゆる分野に浸透している。看護の分野においてもICT活用はますます重要なものとなっている。本授業ではパソコンを使った情報処理・情報活用能力のほか、情報社会において身につけるべき情報倫理、情報セキュリティに関する知識の習得を目指す。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	・情報とは、情報社会とは	講義・演習	視聴覚室		
2	/	・情報倫理と情報セキュリティ	講義・演習	視聴覚室	タッチタイピング	
3	/	・Wordの基本操作1(文字入力、文書作成)	講義・演習	視聴覚室	文書作成1	
4	/	・Wordの基本操作2(表を含む文書の基礎)	講義・演習	視聴覚室	文書作成2	
5	/	・Wordの基本操作3(表を含む文書の発展)	講義・演習	視聴覚室	文書作成3	
6	/	・電子メールのマナー	講義・演習	視聴覚室		
7	/	・Excelの基本操作1(円グラフ)	講義・演習	視聴覚室	表・グラフ作成1	
8	/	・Excelの基本操作2(散布図、折れ線グラフ)	講義・演習	視聴覚室	表・グラフ作成2	
9	/	・Excelの基本操作3(縦棒グラフ、関数)	講義・演習	視聴覚室	表・グラフ作成3	
10	/	・PowerPointの基本操作	講義・演習	視聴覚室	発表資料作成	
11	/	・プレゼンテーション発表会(テーマ:十年後の私or私の好きなもの)	演習	視聴覚室	発表	
12	/	・データの収集、集計	講義・演習	視聴覚室	表(度数分布表)	
13	/	・代表値と散布度	講義・演習	視聴覚室	表(偏差と分散)	
14	/	・平均値の比較(t 検定)	講義・演習	視聴覚室	表(t 検定)	
15	/	・試験、授業のまとめ		視聴覚室		
評価方法	☆以下の視点で総合的に評価します。 ①出席状況 ②課題提出状況 ③演習態度 ④試験(試験時間は、45分)					
教科書	授業資料を適時配布					
参考書	医学書院 系統看護学講座 別巻 『看護情報学』 オーム社『情報リテラシー教科書』					
履修上の留意点	1. 毎回の授業の積み重ねが大切なので、遅刻や欠席をしないこと。 2. 適時課題を課します。 3. USBメモリ(USBフラッシュドライブ)を使用するので、ひとり1本用意すること。記憶容量は問いません。					

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

5年度	授業科目	保健体育	担当 教員	榎本 宣子	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	生涯にわたっての運動の必要性を理解し、その理論と実践を学ぶ。また、健康づくりに結びつくレクリエーションについて学ぶ。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	授業の概要の紹介と目標設定	講義	教室		
2	/	運動理論と簡単な導入レクリエーション	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
3	/	現在の体力確認を今後の健康と結びつけて考える～実践	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
4	/	自身の健康づくり・セルフコントロールを学ぶ①～呼吸	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
5	/	自身の健康づくり・セルフコントロールを学ぶ②～姿勢	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
6	/	自身の健康づくり・セルフコントロール③～レクリエーションの実際	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
7	/	自身の健康づくり・セルフコントロール④～レクリエーションの実際	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
8	/	自身の健康づくり・セルフコントロール⑤～レクリエーションの実際	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
9	/	自身の健康づくり・セルフコントロール⑥～レクリエーションの実際	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
10	/	自身の健康づくり・セルフコントロール⑦～レクリエーションの実際	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
11	/	自身の健康づくり・セルフコントロール⑧～レクリエーションの実際	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
12	/	高齢者と障がい者の運動と行政の取り組み	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
13	/	高齢者と障がい者の運動と実際・楽しめるレクリエーション①	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
14	/	高齢者と障がい者の運動と実際・楽しめるレクリエーション②	実技・講義	体育館	振り返りレポート	
15	/	高齢者と障がい者の運動と実際・楽しめるレクリエーション③ まとめ	実技・講義	体育館	まとめレポート	
評価方法	毎授業ごとに提出のレポート(60点)と実技演習、学習への取り組み(40点)の総合点で評価します。					
教科書	なし(講義中に資料を配布)					
参考書	授業で紹介					
履修上の留意点	運動理論の基礎を学び、まずは自分自身のセルフコントロール、そして高齢者・障がい者が楽しく健康づくりを進めていくプログラム作成や指導方法を学んでください。 各自、ヨガマットを準備してください。使用時事前に連絡します。忘れずに持参ください。					

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

5年度	授業科目	家族論	担当教員	龍 祐吉	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	看護師として、家族看護を効果的・適切に実施するためには、拡大家族から核家族等家族の変遷とその背景・原因について理解が不可欠である。本講義では時代的変遷に伴う、新たな家族観と諸問題について論じる。具体的には、晩婚化、非婚化、離婚、ステップ・ファミリー、マルトリートメント(虐待)、ドメスティックバイオレンス、孤独死、介護等の負担、少子化、子どもの貧困等があげられる。現代の家族を取り巻く諸問題を取りあげ、その本質について考えていく。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	家族とは何か	講義	教室	最近の家族	
2	/	家族の変動	講義	教室	家族概念	
3	/	対人魅力(好意と恋愛)	講義	教室	対人魅力	
4	/	配偶者の選択と結婚	講義	教室	結婚観	
5	/	結婚の多様化	講義	教室	同性婚・国際結婚	
6	/	夫婦関係と離婚	講義	教室	結婚満足度	
7	/	親子関係の成立	講義	教室	生物学的視点	
8	/	親子関係の成立(ひとり親、ステップファミリー)	講義	教室	再婚の意義	
9	/	虐待と家族	講義	教室	虐待	
10	/	高齢者と家族	講義	教室	老化	
11	/	高齢者介護と諸問題	講義	教室	介護問題	
12	/	子どもの貧困と家族支援	講義	教室	貧困	
13	/	少子化と子育て環境	講義	教室	少子化	
14	/	生殖補助医療と家族	講義	教室	生殖補助医療	
15	/	授業の総括:30分、試験:60分	講義	教室	振り返り	
評価方法	毎回課す振り返りシート(リフレクションペーパー)と定期試験の結果を通じて総合的に評価します。筆記試験は60分で実施します。					
教科書	有斐閣 『問いからはじめる家族社会学—多様化する家族の包摂に向けて—』					
参考書	中央法規 『対人援助職のための家族理解入門』					
履修上の留意点	受講者の理解を促すために、講義用の資料を配付します。					

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

5年度	授業科目	地域活動	担当 教員	榎本 宣子	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15+研修1
学習目的・目標	西尾市の特性を知り、地域の人々と触れ合い自己の持てる力をさしだす。また、活動をとおして人の役に立つことを実感し社会に貢献する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	授業の概要の紹介と目標設定	講義 GW	教室		
2	/	地域のボランティアを知る 地域の人々との交流のための班分け	講義 GW	教室		
3	/	地域の行事とボランティアについて知る。 参加行事(福祉祭・パール卓球大会・障がい者マラソン大会)の班分け	講義 GW	教室		
4	/	「地域の人々との交流」学びの共有 グループワーク①	GW	教室		
5	/	「地域の人々との交流」の学びの共有 グループワーク発表②	GW	教室		
6	/	個人レポート作成 地域の行事・ボランティアの実践から学べたこと	個人 ワーク	教室		
7	/	ボランティアの実践から振り返るグループワーク① 個人レポートの学びをグループで共有する。	GW	教室		
8 (1h研修)	/	ボランティアの実践から振り返るグループワーク② グループワーク発表とまとめ	GW	教室		
評価方法	個人レポート提出(60点)とグループ発表と態度(40点)で評価します。					
教科書	なし(講義中に資料を配布)					
参考書	授業で紹介					
履修上の留意点	<p>ボランティアの基礎を学ぶとともに、ボランティアの実践を通して、地域の現状と課題を考え、それぞれができることにベストをつくしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との交流とボランティア参加は研修(ボランティア)時間で参加します。 ・予定していたボランティアに自己都合で参加できない場合は、別日程で参加していただきます。 ・地域の人との交流は夏期休暇中に設定します。 ・ボランティアは、福祉祭とパール卓球大会から1つと障がい者マラソン大会に参加してください。 <p>ボランティアに参加した学びをクラスで共有します。自分の持てる力をさしだし、社会に貢献しましょう。</p>					

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

5年度	授業科目	文化人類学	担当教員	松宮 朝	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>現代社会の諸問題に対してどれだけ迫ることができるか、また、どのような実践的な課題を見いだせるかという点から、議論したいと考えています。そこから、講義で扱うテーマを含む様々な社会の問題に対する情報を受け止める力、理解する力を獲得することが到達目標です。</p> <p>特に重視したいのが、看護師の仕事にとって、文化を考えていくことがどのように役立つかです。近年、話題となっているメディア、生命、少子化、環境、多文化共生などのテーマについて1つ1つ丁寧に考えていきたいと思えます。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	文化人類学に何ができるか	講義	教室	小レポート	
2	/	コミュニケーションの文化	講義	教室	小レポート	
3	/	消費と文化	講義	教室	小レポート	
4	/	メディアと文化	講義	教室	小レポート	
5	/	環境の文化と生命	講義	教室	小レポート	
6	/	家族・人間関係の文化をめぐる問題	講義	教室	小レポート	
7	/	人びとの行動を変える文化的実践	講義	教室	小レポート	
8	/	身体・生命の文化を考える	講義	教室	小レポート	
9	/	地域の文化的多様性	講義	教室	小レポート	
10	/	文化人類学のフィールドワーク	講義	教室	小レポート	
11	/	日本で暮らす外国人について	講義	教室	小レポート	
12	/	外国人との共生を考える	講義	教室	小レポート	
13	/	「多文化共生」:地域での実践から	講義	教室	小レポート	
14	/	現代社会と文化の問題:文化人類学の可能性	講義	教室	小レポート	
15	/	授業のまとめ、試験	講義	教室	小レポート	
評価方法	授業時に実施する小レポート(計40点)、学期末のテスト(60点)で評価します。学期末テストは60分で行います。					
教科書	なし(授業時にレジュメ・資料を配付します)					
参考書	ミネルヴァ書房 2012年 『現代文化のフィールドワーク入門』					
履修上の留意点	授業時には毎回、小レポートを実施します。感想・意見・疑問など何でもかまわないので、受講者の積極的な参加を期待します。					

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

5年度	授業科目	英語	担当教員	島崎 寛子	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
授業科目に関連した実務経験の内容		企業にて通訳・翻訳経験7年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		通訳・翻訳の経験を活かし、看護師の日常業務に必要な英語に慣れ親しみ、外国人患者と意思疎通がはかれるようにグループワークを取り入れている。				
学習目的・目標	1. 看護師の日常業務に必要な英語に慣れ親しみ、外国人と英語で意思疎通がはかれるための必要な知識を身につける。 2. 看護師として働く上で必要な英語を習得する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	オリエンテーション(この授業について)、挨拶、自己紹介 Unit 1 初診者に対応しよう。	講義	教室	予習/復習	
2	/	Unit 2 / Unit 7(一部) 症状を聞こう。(症状の英語表現)	講義	教室	予習/復習	
3	/	Unit 3 どの診療科に行きたいか聞こう。(問診表の英語表現)	講義	教室	予習/復習	
4	/	Unit 4 病院内の案内 Unit 14(一部) 身体の部位名	講義	教室	予習/復習	
5	/	Unit 5 体調の確認 Unit 11(一部) 問診レポート	講義	教室	予習/復習	
6	/	Unit 6 病名、症状の英語表現 Unit 10 薬の説明をしよう。	講義	教室	予習/復習	
7	/	まとめと復習 Unit 15 退院患者への対応	講義	教室	予習/復習	
8	/	最終試験(筆記)	筆記試験	教室		
評価方法	小テスト、課題提出、授業態度、出席(20%)、期末試験(筆記)(80%) 最終試験(筆記)は45分で行う。					
教科書	山中マーガレット 編著「看護系学生のための実践英語」朝日出版社(『Asahi Press, English For Nurses』) ※この教科書は、2年次 英会話でも使用します。					
参考書	配布プリント、講義中に適宜紹介する。					
履修上の留意点	病院の場面を想定した会話のロールプレイング等を講義の一部に取り入れる。 医療用語の基本的な英語表現を毎回覚える。 授業では、プリントやノートにメモし、自分なりにまとめて予習・復習すること。 質問・欠席連絡は原則一週間以内に連絡し、学習内容や課題について説明を受けること。					

※実務経験は令和5年4月1日現在

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

6年度	授業科目	英会話	担当 教員	ジョージ・フー	単位(時間数)	1(15)	
第2学年					担当時間数	15	
授業科目に関連した 実務経験の内容		英会話講師経験27年					
実務経験を活かした 実戦的な授業内容		英会話講師としての経験を活かし、外国人患者と意思疎通がはかれるように英会話を取り 入れている。					
学習 目的 ・ 目標	国際社会に対応するため、外国語に親しみ医療現場における表現能力を身につける。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	自己紹介・授業説明			lecture	教室	
2	/	Unit 1 Is this your first visit to this hospital ?			lecture	教室	
3	/	Unit 2 What's the matter ?			lecture	教室	
4	/	Unit 3 You need to see a Dermatologist.			lecture	教室	
5	/	Unit 5 Let's check your height and weight.			lecture	教室	
6	/	Unit 6 I need to ask you some questions.			lecture	教室	
7	/	Unit 7 Can you describe the pain ?			lecture	教室	
8	/	Unit 9 Please make a follow-up appointment.			lecture	教室	
9	/	Unit 10 Take this medicine after meals.			lecture	教室	
10	/	Unit 11 Your operation will be this afternoon.			lecture	教室	
11	/	Unit 13 This is an emergency.			lecture	教室	
12	/	Unit 14 Tests show you have high sugar levels.			lecture	教室	
13	/	復習①			lecture	教室	
14	/	復習②			lecture	教室	
15	/	オーラル・コミュニケーションテスト				教室	
評価方法	オーラルコミュニケーション で評価します。試験時間は45分で、配点は100点です。						
教科書	『Asahi Press, English For Nurses』 (山中マーガレット 編著「看護系学生のための実践英語」 朝日出版社)						
参考書							
履修上 の 留意点	1回の授業時間は45分で行います。						

※実務経験は令和5年4月1日現在

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

5年度	授業科目	人間関係論	担当教員	青柳 眞紀子	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>コミュニケーション技術に関する基礎的な知識・理論と技術を身につけ、医療社会の一員としての望ましい心構えや、医療従事者としての諸活動に適切に対応する能力と態度を身につけることを目標とする。</p> <p>1. よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につける。 2. 医療現場において効果的に業務を行うためのチームコミュニケーション能力を身につける。 3. 演習を振り返り、必要な事柄に自ら気づき、学び取る能力を身につける。 4. 学んだことを、実際の生活や職務に般化できるように文章化する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	ガイダンス 授業の進めかた、レポートの書きかたなど	講義	教室		
2	/	絵による伝達競争 伝える側と伝えられる側 レポート①	演習講義	教室	①	
3	/	流れ星 two-wayコミュニケーション レポート②	演習講義	教室	②	
4	/	おもしろ村 グループワーク	演習講義	教室		
5	/	おもしろ村 解説 リーダーシップなど レポート③※	講義	教室	③	
6	/	カウンセリングマインド ロジャースの3条件	講義	教室		
7	/	きく、ということ レポート④	演習講義	教室	④	
8	/	カウンセリングの技法① かかわり技法	演習講義	教室	⑤-1	
9	/	カウンセリングの技法② 最小限度の励まし、いいかえ	演習講義	教室	⑤-2	
10	/	カウンセリングの技法③ 焦点の当てかた技法 レポート⑤	演習講義	教室	⑤-3	
11	/	めかくし探検 レポート⑥※	演習講義	教室	⑥	
12	/	対話的關係の自己点検 レポート⑦※	講義	教室	⑦	
13	/	認知症①基礎知識	講義	教室		
14	/	認知症②理解と対応	講義	教室		
15	/	認知症③家族・介護者への対応 レポート⑧+最終レポート	講義	教室	⑧+最終	
評価方法	毎回のレポート(約80%)および最終レポート(約20%)で評価します。					
教科書	なし					
参考書	授業内で紹介します。					
履修上の留意点	<p>レベルの高いレポートが求められます。解説は適宜メモを取ること。レポート作成の時間を十分に確保すること。</p> <p>事後学習:指定された書式でレポートを作成する。演習中の自分の感情、授業内での解説内容と、自ら気づき、学び取ったことを書く。</p> <p>さらに、看護の現場でどのように学びをいかしていくか、それができるために今から気をつけることは何か、できることは何か、今すぐできる具体的な行動目標として記述する。</p>					

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

5年度	授業科目	カウンセリング理論	担当 教員	川崖 真知	単位(時間数)	1(15)	
第1学年					担当時間数	15	
【川崖真知】 授業科目に関連した 実務経験の内容		臨床心理士経験25年 公認心理師経験4年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		臨床心理士・公認心理師としての経験に基づいた講義により、対人関係の理論と技法を学ぶ。					
学習目的・ 目標	<p>看護師は、疾患を抱えた患者や家族等の身近に存在し、対象の苦痛を理解し、ともに考え支援する役割を担う。そのため、対象との人間関係を構築し、対象の抱える苦痛や葛藤、社会生活上の問題・課題等の解決に向けて取り組むためにカウンセリングの理論や技法が必要となる。したがって、本科目においては、看護師として必要なカウンセリングの理論と技法を学ぶ。</p> <p>目標:1. カウンセリング、心理療法の理論とスキルを理解する。 2. 認知行動療法を学び、実践する。 3. コーチングの理論とスキルを学び、コーチングの活用ができる。 4. アサーションの理論とスキルを学び、アサーティブなコミュニケーションが実践できる。</p>						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1. カウンセリング、心理療法の理論とスキル			講義	教室	
2	/	2. 認知行動療法			講義 演習	教室	
3	/	3. コーチングの理論とスキル			講義 演習	教室	
4	/	4. コーチングの活用			演習	教室	
5	/	5. アサーションの理論とスキル			講義	教室	
6	/	6. アサーティブなコミュニケーションとは			演習	教室	
7	/	7. アサーティブコミュニケーションの実践			演習	教室	
8	/	まとめ (45分)			講義	教室	
評価方法	授業後のレポートや最終レポート等で評価します。						
教科書	医学書院 系統看護学講座 基礎分野 『人間関係論』						
参考書							
履修上の 留意点							

※実務経験は令和5年4月1日現在

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

6年度	授業科目	教育学	担当 教員	古殿 真大	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>目的:教育学は「人間とは何か」「人間はどう生きるべきか」という問いから出発し、人間社会に固有な営みとしての教育のあり方を探究してきた。本授業では、教育学の基本的な考え方を学び、教育に関わる様々な事象を主体的かつ批判的に考える力を身につけることを目指す。</p> <p>目標:1. 成長・発達への教育の影響および人間にとっての教育の意義を理解する。 2. 看護における教育的役割を実践するための基礎的知識を理解する。 3. 専門職業人として主体的に生涯学習を行う必要性を理解する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	なぜ教育学を学ぶのか?:人間理解と教育	講義	教室		
2	/	看護師としての学習とキャリア開発	講義	教室		
3	/	発達と教育①	講義	教室		
4	/	発達と教育②	講義	教室		
5	/	教育の歴史と制度①	講義	教室		
6	/	教育の歴史と制度②	講義	教室		
7	/	特別なニーズをもつ子どもと向き合う①	講義	教室		
8	/	特別なニーズをもつ子どもと向き合う②	演習	教室		
9	/	学校は監獄?:近代学校批判とエンパワメントの教育	演習	教室		
10	/	患者指導に向けて:指導の基本と工夫	講義	教室		
11	/	演習「集団指導」①	講義	教室		
12	/	演習「集団指導」②	講義	教室		
13	/	教育とケア①	講義	教室		
14	/	教育とケア②	講義	教室		
15	/	授業まとめ、試験		教室		
評価方法	定期試験70%(筆記試験は、45分で行います)、授業への参加状況30%					
教科書	医学書院 中井俊樹・小林忠資編著、『看護のための教育学』					
参考書	授業時に適宜、紹介します。					
履修上の留意点	授業は主に講義形式で進める。プリントを配布し、適宜グループワークも行う。教科書の内容に限らず、教育学の基本的な理解に必要と思われるトピックも扱う。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出すること。					

科目群:基礎分野【人間と生活・社会の理解】

7年度	授業科目	組織論	担当教員	辻村 宏和	単位(時間数)	1(30)
第3学年					担当時間数	30
学習目的・目標	人間社会の規範及び各種諸問題を組織論的に解決する方法を学ぶ。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	組織論の意義	講義	教室		
2	/	組織の病気へのアプローチ	講義	教室		
3	/	組織力の原理	講義	教室		
4	/	組織力の比較	講義	教室		
5	/	非公式組織の意義(1)	講義	教室		
6	/	非公式組織の意義(1)	講義	教室		
7	/	会議運営	講義	教室		
8	/	組織内情報	講義	教室		
9	/	強い組織への原理	講義	教室		
10	/	人事評価システムへの意義	講義	教室		
11	/	職務権限の意義	講義	教室		
12	/	職務権限の委譲	講義	教室		
13	/	監督責任の発想	講義	教室		
14	/	職務権限委譲の困難性	講義	教室		
15	/	総括	講義	教室		
評価方法	筆記試験にて評価します。試験は60分で実施し、配点は100点です。試験は、講義時間外の時間で実施します。					
教科書	成文堂 『組織のトラブル発生図式』					
参考書						
履修上の留意点						